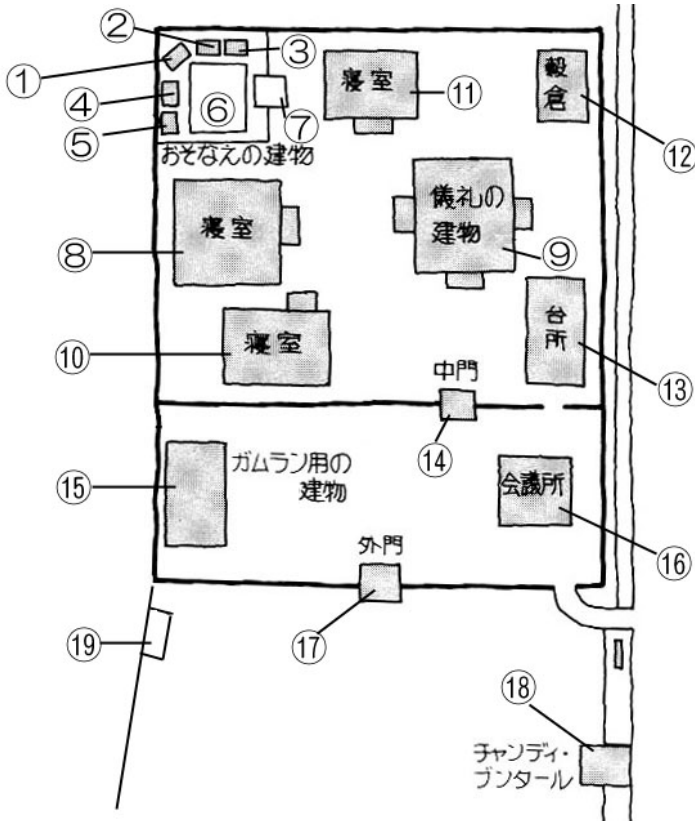


とうきぞく
インドネシア バリ島貴族の家

赤道直下の火山の島、バリ島。ヒンドゥー文化の影響を受けたこの地の社会には、貴族と平民をわけるカーストを模した制度があります。展示家は貴族階級の屋敷をモデルに復元したもので、敷地を内壁で3つにわけて建物を配置しています。いちばん奥の①～⑥はもっとも神聖な区画で、ヒンドゥーの神がみや祖先をまつ屋敷内の寺院(祭祀場)があります。⑧～⑬の中央部分は、儀礼の建物を中心に寝室、穀物庫、台所が建ち並ぶ生活の場であり、⑮～⑯の手前の部分は、お祭りや儀礼のときに余興として踊りやガムラン演奏をする場です。



インドネシア バリ島の衣装 いしやう

バリの女性の普段着は、カインと呼ばれる無縫製の带状の一枚布を体に巻くものでした。今ではイスラームやヨーロッパの影響もあり、ヒンドゥー教を信仰するバリ島でも女性は肌を隠すようになり、ブラウスやスカートといった装いをしていますが、お祭りや結婚式、舞踊ともなると華やかな衣装を身にまといま

す。バリの舞踊には大別してワリ、ブバリ、バリバリアンという3種があり、舞踊によって衣装は異なります。ワリは、寺院内の儀式で神様のために踊る神聖なものです。ブバリも神聖な舞踊ですが、物語にそって舞います。バリバリアンは娯楽性が高く、神様と人間の両方が楽しむものであり、たくさんの方が観覧できるように、寺院の前の集会所などで踊ります。

マルハナバチの踊り（オレグタンブリリンガン）

バリバリアンには、レゴンやバリスといった有名な舞踊のほかに、オレグタンブリリンガンという舞踊があります。“オレグ”は「柔らかく、しなやかな」、 “タンブリリンガン”は「マルハナバチ」という意味です。この舞踊の女性役は、冠とブンガ・マス(金の花)というかんざしで飾り立てた女王様のような衣装をま

といます。物語は、伝統的なバリの恋物語を表しています。美しい花園で恋をした若い男女のハチが舞い踊る様子は、若いバリの人びとの求愛の儀式を象徴しています。今日バリでは盛んに新たな舞踊が作られており、これも1950年代に創作されたものと言われています。

